



太陽の子保育園 2022年5月号

こいのぼりが気持ちよさそうに泳ぐ、さわやかな季節になりました。新しいお友達も少しずつ保育園に慣れ、園庭でかけまわる姿が見られます。クラスも新しくなり、お友達と泣いたり、笑ったり・・・違った雰囲気のクラスになっています。新しいクラスでの成長が楽しみですね。

5月のゴールデンウィークは一年のなかで最も過ごしやすい時期ですね。是非ご家族

5月は過ごしやすいようでいて、実は熱中症に注意が必要な時期。まだ体が暑さに慣れておらず、熱中症になりやすいのです。さらに、子どもは身長が低く地面との距離が近いため、大人よりも高温の環境で過ごしています。体調の変化に周りの大人が気を配ってあげることが大切です。

こんな様子はありませんか？



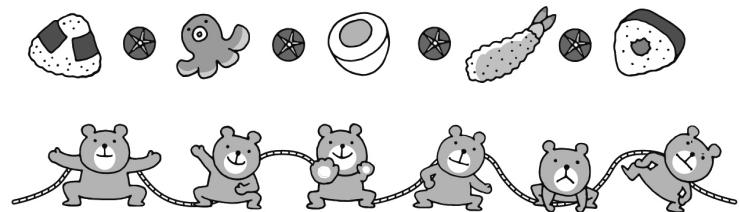
- 顔が赤くほてっている
- ひどく汗をかいている

防ぐために

- ・水分補給をしっかり
- ・こまめに休憩をとる
- ・暑さに応じて脱ぎ着できる服装を
- ・屋外ではぼうしをかぶる

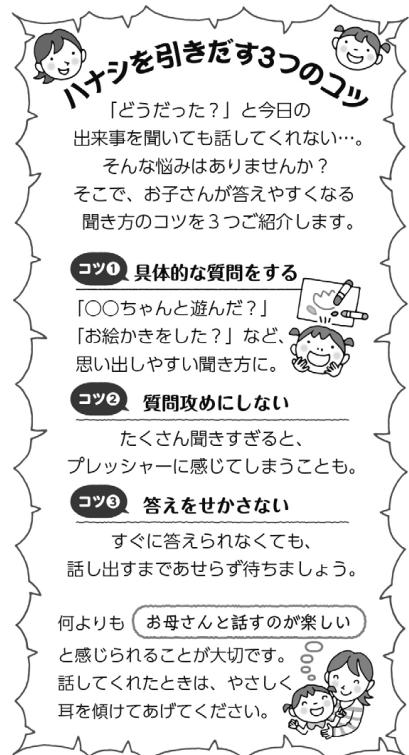
☆ゴールデンウィークも熱中症に気をつけて、楽しい思い出づくりを！

シーズン到来！熱中症に気をつけて



<爪について>

爪の長いお子さんが多く見られました。子どもの爪はやわらかいため、割れやすく、自分自身の顔やからだを傷つけます。
また、友達にケガをさせてしまい、かなり深い傷ができることがあります。
ご家庭で定期的に切るようにして下さいね♪



～乳児ボツリヌス症～



ボツリヌス症

ボツリヌス菌によって引き起こされる病気をボツリヌス症と言います。ボツリヌス菌は土壤・河川・海洋に広く存在しています。ボツリヌス菌の芽胞※は、低酸素状態に置かれると発芽・増殖が起こり、毒素が产生されます。

乳児ボツリヌス症とは

乳児ボツリヌス症は生後3週～6ヶ月の乳児に見られます。
 1歳を越えると、正常な大腸細菌叢が形成され、発症しなくなります。

ボツリヌス症は神経麻痺症状が主で、対称性に麻痺が起こり、呼吸筋の麻痺にまで進行することがあります。

突然の発症から、数日かかる徐々に発症する場合もあります。乳児ボツリヌス症はボツリヌス芽胞を摂取し、腸管内で産生された毒素による発症で潜伏期間が3～30日と長いのが特徴です。原因として菌または芽胞に汚染されたハチミツを飲み込むことで起こります。初期に便秘、活気がない、哺乳不良、泣き声が弱い、さらに筋緊張性低下、よだれが多い、首のすわりが悪くなったり、眼球運動の麻痺、無呼吸などがでてきます。

疑わしい場合、食品、便、血液からボツリヌス毒素を検出することで診断がつきます。



※芽胞とは

ボツリヌス菌、炭疽菌、破傷風菌などは、生存に適さない環境（高温、乾燥、栄養状態の悪化など）になると菌体内に芽胞という硬い殻の構造物を作り、長期間休眠状態を維持できる。増殖に適した環境になると発芽して菌体に戻ります。

芽胞は煮沸や冷凍処理、乾燥、アルコール消毒などの過酷な条件下でも完全には死滅しません。



1歳未満の乳児の腸内は、ボツリヌス菌が定着してしまう状態になっていることがあるため、大人が食べても健康に影響がない食品でも、乳児が食べると病気になることがあります。ハチミツ、コーンシロップ、自家製の野菜ジュースなどはボツリヌス芽胞による汚染の可能性があるため、1歳未満の乳児に与えてはいけません。

